１９９５年度田んぼ班報告書

野川で遊ぶまちづくりの会
たんぼ班

田んぼ日記より

大木健次

1月　7日　　第１回堆肥切り返し。

1月２９日　　田んぼ班懇親会。農業高校研修室にて、参加・尾辻、依田、四方田、大木、石丸、田村、深沢。

3月　5日　　第１回荒おこし。冬草がおい茂る田を耕耘機でうなる。耕耘機トラブル。竹内さんがおらず、うち（大木）の近所の倉又さんに急きょ来てもらう。ガス欠になった折にキャブレターに土がつまったとのことで再び動くようにしてくれる。時期が遅く冬草は十分根を下ろしてしまっている。

3月２１日　　第２回荒おこし。やり残した部分をうなる。竹内さんから、「耕耘機の調子が悪い。アクセルを入れても馬力が上がらない。修理に出してくれ。」とのこと。

3月２５日　　田村さんの軽トラに耕耘機を乗せて、甲州街道沿いの宮地機械へ搬入。（修理代１万円也）。

4月１１日　　９４年田んぼ報告書発行。新会員の自己紹介文と深沢芽生ちゃんの絵日記が目玉。

4月１６日　　苗代づくり。鍬でおこし、雑草を取る。苗代のまわりには水を引くための溝を掘る。去年乾燥に悩まされたため、苗代の表面の高さを田んぼの水準にあわせる。堆肥と消石灰を混ぜる。酸性好みの稲に消石灰を入れるという失敗。苗づくり失敗の１原因。

4月２６日　　保存していた自家採取の籾（あきたこまち）を水に漬ける。浮いた籾はすてる。

4月２９日　　種蒔き。うるち用、もち用それぞれの苗代に籾をまく。うるちは用意した籾全部をまいてしまい、あきらかに厚まき（失敗その２）。土をかぶせて、上から叩き、ネットをかぶせる。

5月　1日　　ネットの穴からすずめがつつく。竹内さんが気にしていることでもあり、ネットの補強をする。田村さんが杭と紐を用意してくれ、ネットを押さえる。風にネットがめくれることは防止できる。

5月１４日　　冬草取り、畔補修、堆肥入れ、耕耘。９メンバー全員参加。竹内さんから「冬草は全部取って出すか、このまま水をいれるかだ。」といわれ、堆肥投入の前に冬草の除去を行うことに。少々地面が湿っていて冬草の根に泥がついているが構わず抜いて隅に積み上げる。その後５ケ月寝かせた堆肥をばらまいて耕耘する。掘さんが耕耘機を操りプロの農家の畑のように畝を立ててうなった。昼食はカレーライスの炊き

出し。田村さんが大人用の辛口・子供用の甘口と用意（完璧）。

5月２１日　苗代のネットを取る。うるちは特に色気がわるく、丈も４～５センチ。小さく密植している。

5月２８日　くろつけ。前日中に溝を掘り、水を流して置く。当日は取水口からみて奥の方から、泥を作り、塗って行く。溝を大きく作ったせいか、泥がたっぷりでき、十分な畔ができた。反面、塗る以前の泥づくりに時間がかった。掘さんの長男（中３）も参加、大いに助かった。

水を含んだ畔は、塗る直前の削りがやりやすかった。また、くろつけによる畔づくりはどうしてもその後崩れやすかったり、変形していったりしやすいので、荒おこしの段階で１度乾いた土で畔をざっと補正しておくと更によいかもしれない。

炊き出しは、炭火でソーセージを焼いてホットドッグ。外で食うものは何でも旨い。

6月　３日　苗代除草、追肥（化成８号）。

6月１０日　再度追肥。苗が小さいのをみて竹内さんが「硫安を追肥したら。」とアドバイス。やりすぎないように注意しつつ追肥。

6月１７日　苗取り、しろかき。

とうとう苗は十分大きくはならなかった。色も悪く、細い。本数は十分あるので、大きいものから使うこととし、全部抜いて束ねる。その前に全面に水を入れ苗が抜きやすいようにする。

その後、耕耘機の車輪を取替え、田んぼに入れてしろかき。足跡がスッと埋まるような硬さに泥をこね、更にトンボでならす。丁度よくなったところで水を止める。

6月１８日　田植え。メンバーの他、中学生１人、小学生７人、２１歳の元ヤマギシ青年１人などが集まり賑やか。田んぼは水が浮いていない最高の状態。３０センチ×２０センチと間隔を取り、株数は３株、浅植えと約束してスタート。去年よりはよかったが、ジグザグの列ができた。

メンバーは指導とフォローにまわり、ゲストが主に植えた。子供たちもよく働いた。

終わった頃、炊き出しのお母さんたちから「豚汁ができたよー。」と声がかかり、竹内さんの庭先を借りて皆で昼食。田植えの直前に余った硫安を全部いれたのは多すぎたか。

6月２４日　補植。田植え後の１週間は、曇りが多く、雨が２日、４月下旬並みの寒さの日が２日。その中でわが黄色い小苗は葉をピンと伸ばして植わっている。

浮き苗が多いので、フォロー。もちの１角に斑点付きの苗を発見。

野ガモが２羽、バシャバシャ泳いでいる。

6月２６日　雨。水温は高い。活着しつつある。斑点付きの苗を植え替える。苗の葉先が少々たれ始めた。

6月２９日　浮き苗が２～３本。浮草が取水口付近にビッシリ。近所の子供が遊ん

でいる。今月は、平年の２分の１の日照時間（２６日までで５３時間。平年の５２％減）という。
稲は緑が濃くなったものの、依然、葉先が少々たれている。

７月　１日　浮草すくい。取水口、北側の辺、北東のコーナー、用水路沿いに多し。捕虫網ですくう。
水温は高い。泥も温かい。
欠株が数株あり、補植。長い苗はグングン葉を伸ばしている。南西のコーナーの葉に斑点がついた数株は伸長せず。水温が高い場所なので、低温障害ではなさそうだが、何らかの病気かも。

７月　２日　オタマジャクシを発見。
浮草を取って用水路に流していると、下流で田植え中の田中さんが自転車でやってくる。
「草を川に流すのはやめてくれ。そっちは趣味でやってるのだろうが、こっちは商売なんだ。」としかられる。
作業中の竹内さんにトマトをもらう。ギンヤンマ、シオカラのメス、バッタ類をみる。

７月　５日　朝、取水口の水止めの袋が外れており、雨とあいまって、深水状態。袋を詰め直す。
夕方、再び取水口に水止めなし、水かさが畔を越える寸前。堰を外すと水がドッと流れ出る。

７月　６日　苗は伸長と分けつを始めており、葉が大きく伸び、たれている。
水は温いが、泥の中は思ったより冷たい。蛙が２～３匹鳴いている。

７月　９日　一番草。一株ごとに泥の中に手を入れて、株のまわりをグルッとかく（根きり）。傾く株は真っ直ぐに戻す。その後、水を入れ直してから、浮草を取る。
株によって、生長の差が著しい。初期に斑点が出ていた株などに遅れが出ている。
子供たちもいれて皆で七夕飾りを作り、畔にさす。

７月１０日　久し振りの陽射し。３０度近くなる。浮草が取水口付近にぎっしり。水止めを取って流す。

７月１３日　分けつ旺盛、茎も太くなってきた。色も濃くてよい。７月１０日のときより丈も一段高い。

７月２３日　二番草。二回目の根きりを行う。水温にばらつきがある、決して奥の方が温くはない。
雑草が１０株ほど。稲に葉の先枯れや、斑点の発生はないが、生長のばらつきが目立つ。株間が広いためか、見事に扇形に分けつしている株も多い。根きり終了後、浅水にしておく。
オタマ多数。ミズクモ、ショウリョウバッタなどをみる。

７月２６日　暑い日が続き稲には最高。
絵堂地区のたんぼをみると、水面が見えないほど葉が茂っていてよい。

ただし、取水口近くの生育が悪いのは例年どおり。冷たい上流の用水をかけ流しにしているためか。

８月　１日　夕方、２時間ほど水を抜く。これからは基本的に浅水管理として、時々深水にしようと思う。
必要があれば追肥のことも考えたい。
竹内さんは、納屋を壊して新しく車庫兼納屋をつくっているようだ。息子さんが連日建機を動かして作業している。

８月　２日　柏野まつり実行委員会。尾辻さん、依田さんにも来てもらう。小学校の開放運営委員会主催の夏祭りに、田んぼ班では資金稼ぎも兼ね、焼き鳥の出店を出すことになっている。
委員会の後、柏野小ＰＴＡ会長の大場さんと、「今年は、かかしコンクールに出品しよう。」と話す。
夕立があったが、尾辻さんが堰を外してくれたとのこと。

８月　６日　連日夕立あり。２０日の虫捕りに向け、地面を少し乾かそうかと考える。
付近のたんぼは、富沢さん、田中さんともにうちより丈が一段低いが、順調。
田村さんにたのんで、会費からビール券５枚ほどをお中元として、竹内さんに届けてもらう。

８月　８日　たっぷり深水。ギンヤンマのヤゴが泳いでいた。
葉の色は隣の田んぼより一段と濃い。所々の枯れた葉が気になる。

８月１６日　穂が出ている。穂の多くは直立しているが、一部はもう垂れている。
深水なので排水する。

８月１７日　一日中水を干す。

８月２０日　虫捕り。参加者（田村、永瀬、四方田、依田、大木）で、どれだけ蛾の幼虫が捕れるか競争する。トップは永瀬さんの２８匹。４人で合計１０１匹。思ったより少ない、捕る時期が遅かったか。また、畔の草を刈る。養分があるせいか、雑草の勢いがすごい、また軟らかい。終わって注水。その後、会員で生物に詳しい大学生の上村君を講師に、たんぼの生物観察会をする。
ギンヤンマ、シオカラ、ウスバキ、アジアイトトンボ、アマガエル、オオカマキリ、オンブバッタ、ショウリョウバッタ、ハネナガイナゴ、クモ、コオロギ、ヒシバッタ、アゲハ、モンシロなどが観察もしくは採取できた。参加した子供は、上村君の解説を興味深そうに聞いていた。

８月２４日
２５日　柏野夏まつり。２日間で焼き鳥４千本を焼く。焼き台を上佐須自治会より借り、鳥串は武蔵野市場で購入。田村さん、尾辻さんには２日間仕事を休んでもらい、子供たちも動員して必死の態勢で臨んだ。
酷暑のなか、連日２時・３時に集まり、解凍、炭おこし、白焼きをして準備。５時からは押し寄せる客を前に汗だく、目を真っ赤にして炭

火と格闘。気が付くと８時・９時になっていた。
手伝ってくれた皆さん、本当に御苦労様。完売しました。予定より少なめだったものの収益も上がりました。尾辻さんの長男（中２）も頑張って焼方を手伝ってくれた。
収益は、米の購入費には充てず、とりあえずストックすることに。また、来年以降については別途検討の上参加・不参加、出店内容を決めることに。

８月２７日　もちの穂も出そろう。
全体に丈は長いが、茎が細く、田んぼ中央部の株には斜めになっているものもあり。また、雑草を抜くと、一緒に稲株が抜けるものもある。

９月　３日　穂がたれている。茎の色も黄色くなっている。秋の風情だ。水は入っていない。
まわりの田んぼも全部穂がたれている。籾の中身は固まっていない。

９月１０日　かかし作り。田村チーム、尾辻チーム、平尾チーム、永瀬チーム、造型教室チームの計５体のかかしができた。１０時から１時くらいまでかかる。うち４体を田んぼに立て、更にすずめよけのために糸を張り巡らす。ウルトラマンのお面をつけたこわいかかしや、ペットボトル製の風車がついたにぎやかなかかしやらが立っている。
その後注水。
うるちの穂のなかには、青いものも結構ある、が重そうにたれている。もちは全体に青々としている。うるちの中に、既に倒伏と茎の枯がみられる。

９月１７日　台風。午後から雨が上がり、柏野小学校でかかし作りの指導をする。児童の親も参加して、７体ほどのかかしができる。
その間、尾辻さんは、田んぼで倒伏した稲を立て直す。１６日の雨で、うるちについては、外側１列を除き倒伏した。茎が腐ってしまったようなのは少ないが、とにかく重なり合うように倒れている。放っておくとすずめに食われるし、地面についた穂からは芽が出かねないので、稲刈りまでたっていてもらうしかない。「雨で倒れるようじゃ余程柔らかく長い茎を作ってしまったのか。」と思いながら、日暮れまで、稲を起こしてはわらで３～４株ごとに縛るが、全部はできず。

９月２４日　炭焼きキャンプ２日目、４人で田んぼへ。稲刈りをしてしまおうと思い、でかけたが、竹内さんの奥さんに「まだ青い穂がある。」と指摘を受け、刈るのは取り止め。４人で２時間かけ、倒れている分を立てる。
倒れた茎は一部枯れている。芽がでているようなのはない。カエル、イナゴがいた。

９月３０日　稲刈り１日目。用水路側から刈り始めて、はざを一組立てて１日目の予定終了。

刈ってみると稲の重さが結構あり、横竿が弱いと折れるし、三脚も均等に立てないと弱い部分が折れる。
基本的には、横竿１本につき三脚を３つ立てるやり方で行う。特に新しい竹竿は用いていない。

１０月　１日　稲刈り２日目。小学３年生が３人、更に幼児も参加した。刈り方を見ていると茎の途中で切ったりしているが、皆よく働く。鎌の切れがよくないのと、土が軟らかいのか根が浅いのか、根っこごと引きずりだしてしまうケースがよく見られた。
稲の縛り方を見ていた竹内さんの奥さんが、たまらず田んぼに降りてきて「毎年教えてるじゃないの。」といいながら、外れない縛り方を教えてくれる。
例年は片手で握りきれないほど１株のボリュームがあるが、今年はあっさり握れてしまうものが多い。茎の色も白っぽい。切り株もナヨナヨした感じで野性味に欠ける。
うるち３列、もち１列。途中倒れたはざもあったが、無事終了。改めてすずめよけの糸を張り、かかしも立てて、けがもなく終了。
今年はゲストに、四方田さんの会社の同僚で、近未来ビジネス研究会という社内サークルのかたが見えて手伝ってくれた。しかも当会からの田んぼ作りについての説明に対して謝礼をくれた。去年は稲刈りの最後に大きなガマガエルが現れたが、今年は思ったより生き物の数が少なく、アマガエル、イナゴが少々いたくらいだった。
終わって、畑の竹内さんに挨拶。来年向けに田んぼにレンゲをまいていいかどうか伺う。あっさりＯＫが出る。

１０月１４日　農協より購入したレンゲ１ｋｇをまく。既にチョボチョボと雑草が生えた地面は硬い。

１０月２１日　脱穀。９時～１７時。一時雨ざらしになっていたレトロな脱穀機を田んぼに据え付ける。モーターとベルトでつなぐ。ベルトが外れやすいのが欠点だが、今年は田村さんと堀さんがきちっと据え付けてくれた。
わらぼこりもうもう。吹き飛ばされたわらのなかにも籾が混じる。多少の籾は田んぼに返し、わらくずだらけになって丸１日。採れた籾もわら混じりでした。
来年の種もみ用には手でこそげ落とした籾を採取。
陽射しの強い中で脱穀していると、竹内さんの奥さんが女性用にと、よく畑で女の人がかぶっている日焼け防止用の帽子をもってきてくれた。
夕方、無事脱穀終了。ビールで乾杯。気持ちのいい一日だった。「３０年前の風景だ。」と言っていた堀さんも帰ってから機嫌がよかったとのこと。
竹内さんに２人目の内孫の誕生祝いを渡す。

１０月２９日　もみすり。９時～１６時。またまたレトロなもみすり機の登場。去年

ベルトが切れてこまったが、なんとかつなげて使った。今年は故障もなく働いてくれた。
２度すりして、少々籾が混じるものの、無事玄米にした。ツヤツヤしたいい米だ。若干青い米も混じる。もみがらが６袋採れた。
米の収量は去年よりやや少なめだ。（白米ベースで１０７ｋｇ）。

１１月　２日　田村さんが、佐須の精米所でもち米だけをとりあえず精米してくれる。

１１月　３日　収穫祭。例年なら２３日だが、今年はスケジュールの都合で３日となる。たくさんの人が集まった。絵堂地区に生まれ育ち、餅つきには一家言もつ相田さんの実地指導の下、あいの手には大場さん、つき手のお父さん方もたくさんいる。子供たちも、杵を持ちたくてズラリと並んだ。
最初のひと臼目は、鏡もちにして竹内さんに「奉納」。ふた臼目から食べ始める。
田村さんがバーベキューもやってくれ、一同おなか一杯。来年はこのなかから新しいメンバーとなる人が出てほしい。
尾辻さん、依田さんらは、柏野小のまわりに展示されているかかしを集めて調布駅南口へ持って行く。
餅つき用具一式は、今年も竹内喜好さんに借りた。又、大場さんからはみかん１箱を、地域在住で子供会連合会副会長の豊田さんからはお祝い金をいただく。大掛かりになったもんだ。

１１月１１日　調布市消費者まつり。会では、炭焼きキャンプをテーマに出店。
１２日　また、かかしコンクールの表彰を受ける。

１２月　９日　落ち葉集め。ベニヤ４枚で囲った中に、落ち葉とぬか９０ｋｇを入れ水を含ませて足で踏む。窒素分過多を避けるため、鶏糞などは入れず。草木灰を少々混ぜる。
小春日和の中、子供たち多数参加。
昼食をはさんで、調布が丘地域センターで反省会。田村、尾辻、依田、四方田、大木参加。
２時から５時まで、炭焼きキャンプのことも含めてたっぷり今年１年を反省。（内容別頁）。

１２月１０日　夕方、竹内さん宅へ米代・諸経費の支払いと御挨拶をしに行く。「戦争中は籾を１粒づつまいた。」「田んぼの面積が増えるといい。」「レンゲは１度まいたら、翌年からはこぼれ種で芽を出す。」など、なごやかな話。竹内さんのご主人から翌年の話が出るのはこれが始めてだ。３年目にして、認知を受けることができたか。お歳暮を渡す。

１２月２３日　忘年会。農業高校の研修室にて、参加者はメンバーから６組、オブザーバー１組、ゲスト３人。もちよりの豪華なご馳走もさることながら、広い座敷と明るい窓、静かな環境に感激する人が多かった。１時から５時まではアッという間にすぎた。ゲストの関森さんに「（野川の会について）今は（農業の）仲間が増えた様に思う」とのお言葉をいた

だく。ほめ過ぎだが各方面で認知されてきたことを感ずる。やっとスタート地点に立てたというのが実感だ。
掘さん（ご主人）のケーキはとても美味しかった。皆さん１年間どうもご苦労様でした。

´９５年田んぼづくりアンケート結果

９５年の作業終了にあたり、アンケートを実施しました。配布・回収が思うようにいかず、結果的に　２通だけの回収となってしまいましたが、回答結果をご報告します。

（質問）　１．田んぼ班参加の動機はなんですか
２．今年の田んぼ作りの作業面、技術面について
（１）うまくいった点はどこでしたか
（２）うまくいかなかった点はどこでしたか
（３）やり方を改善したい点、新たにやってみたいことはなんですか
３．今年の田んぼ班の運営面についての反省点、来年の課題など
４．その他

（回答）

永瀬さん

１．昨年の参加にひきつづき、昨年と今年とを比較するべく、そして田んぼづくりのノウハウをより理解する為。

２．（１）全体の流れは昨年つかんでいたので、要領よくポイントをつかめた点。
（２）自宅と作業場所との距離があり過ぎるので、相変わらずお客様程度の参加しかできなかった点。
（３）皆様に全ておまかせしているので、特に思い当たりません。ただ、あきのこないように変化をつけた内容であってほしいと思いながら、農作業の大変さを真に知らない素人の身勝手さと反省しています。

３．常々、一番後からついていくメンバーなので、反省の余地もありません。
来年の課題については、皆様の旺盛な意欲と向上心に期待しています。

４．いつもこころよく仲間に入れていただきながら、マイペースであることを、多少の心苦しさを感じながら、なおかつ今後もマイペースであろうと確信しています。
例年に懲りませず、どうぞ来年もよろしくお願い申し上げます。

堀さん

１．依田さんより誘われて参加。

２．（１）すべてうまくいったと思います。
（２）特になし。

３．主になり運営された方のご苦労のかいあり、すばらしい田んぼができ、反省点などありません。しいて言えば、いねをかけた時の竹の太さでしょうか。

４．数か月という長い期間を通して一つのことを行うことはたいへんなことです。
若い人たちはすぐ結論を求めますが、田んぼづくりを通して豊かな心と共に、目的をもって少しずつ実行してゆく気持ちを育てたいと思います。（自分自身にもそのことを言いきかせながら）。

９５年たんぼ班反省会より

９５年１２月９日（土）、調布ヶ丘地域福祉センターにて、たんぼ班の反省会を行いました。メンバー９家族中５家族（６人）のみの出席でしたが、意見を記録し今後に役立てたく、ご報告します。

（参加）田村夫妻、尾辻、依田、四方田、大木

１．９５年のたんぼづくりを振り返って

尾辻　苗づくりは二重丸でもない。くろつけは及第点。水草対策も研究の余地あり。又、倒伏でえらく手間をくった、収量にも影響しているだろう。

依田　土づくり、種蒔きの前段階の田作りで栄養過多。堆肥の作り方、成分などに研究の余地あり。「種蒔き五分」といわれているが、厚蒔き過ぎた。
田植えも１本植えが理想とのことだが、うちの苗は短くて物理的に不可能だった。
水管理は申し分なし。ただし、水干しが２週間程度早過ぎた。
くろつけはよくできた。

四方田　基本的には毎年進歩している。今年はしろかきを上手にやったせいか、田植えがやりやすかった。
生物観察会やレンゲの種蒔きについては評価したい。
苗代の厚蒔き対策、苗代の作り方、品種などについては研究の必要あり。あの土地にはアキニシキの方がよい？

依田　アキニシキは食味がよくない。絵堂の相田さんからもらって食べたが、まずかった。

四方田　今年は籾の選別をしたから、（アキタコマチでも）来年は楽しみ。

田村夫　種蒔きが厚蒔きだった。硫安を苗代に追肥したがだめだった。雀の害については、ネットが必要なら会で用意することを考えたい。
脱穀機はレトロでよいがロスもあろう、ラフにやるのはよいが、限られた耕作地ゆえ、ロスを防ぐような仕組みを考えたい。
年間の作業を写真とコメントでビジュアルなものにまとめておくと、年間作業がより自主的なものになる。来年はそれをやりたい。その後で写真をパネル展示してもよいではないか。メンバーの参加のスタイルは、各自テーマを一つ持って、実現すればよいという考えで。
子供には、ピシッとしたことを教えてもよい。

四方田　炊き出しはよかった。

田村妻　むしろ米づくりに集中して、ちゃんとノウハウを身に付けたい。

依田　来年から、「調布市消費者祭り・かかしコンクール」の担当団体になったらどうだろうかと思うが、皆さんの意見を聞きたい。

田村妻　その前に、「調布市消費者祭り」にそもそも参加する理由は？

依田　主催者側から市内の各環境団体に呼び掛けがあったのがきっかけで参加し、４回目となる。

田村妻　東都生協でも、「調布市消費者祭り」にゴミ問題をテーマに出店したが、空回りの部分も多い。来場者にどれくらいアピールできているのだろう。

依田　会の知名度アップに役立っていると思う。

尾辻　１年１度の場として、出店にはそれなりの意味がある。むしろ「調布市消費者祭り」自体の意義についてはどうか。

田村妻　東都生協では、１つのテーマ（豆腐、大豆など）に絞ってアピールしたほうがよかったのではないか…などと反省している。
又、東京では、祭りの有難味がない。いなかでは、祭りというと本当に楽しみなものだった。

依田　「調布市消費者祭り」の特色としては、かかしコンクールとそれに伴う学校呼び掛けがある。

田村夫　会として動くのであれば、意味のある動き方をした方がよい。例えば、かかしコンクールの賞は会がきめるとか、共催と銘打つとか。

尾辻　どこの祭りも人手不足。参加すると祭りの分担者として引きずり込まれるのが現実。

田村妻　今後はマスに訴えるやり方を考えたい。又、細々としたもの全てにかかわるのではなく、限定した対象にエネルギーを集中し、自分を向上させてゆくなかで人を引きつけ、活動を盛り上げるやり方といったものを考えてゆきたい。

２．９６年に向けて

尾辻　たんぼを増やしたい。

依田　たんぼを倍くらいに増やしたい。それと茎がしっかりした稲づくり。

四方田　楽しめれば…。子供が楽しめるイベントを考えたい。

田村妻　上膳据膳で子供に楽しませるのではなく、こちらの気持ちも判ってくれるように…。

田村夫　質量ともに、自分一人でも米づくりができるようになりたい。

テーマ別に４項目について意見交換。

（子供）「できれば意識して子供を取り込んだたんぼづくりをしたい。そのためには、子供をリードする中高生などがいたほうがよいのではないか…」

・取って付けたように中高生などをもってきてもだめ。
・自分の子供が大きくなるのを待つ。
・ある程度自分達の子供が大きくなったら、子供に一部まかせる。
・子供にとって楽しめるようなことを企画する。
・他から子供だけ誘ってきても長続きしない。

（会費）「９５年は繰越金がでたが、来年も引続き会費制とするかどうか」

・現状でよい。

・細かい消耗品などに必要、壊れるものもあろうし。

・買いたいものもある。

（メンバー）「今までは作業期間、会費制、たんぼの面積などを考え、メンバーは１０家族程度と考えてきたが…」

・参加希望者は受け入れる。

・その上で、できるだけ深くかかわってゆけるよう誘導する。

（柏野夏祭り）「９５年に地元へのアピールと資金捻出のために参加したが…」

・続けるべき。

・会の名前とを顔を売ることは有意義、何かの時には地元に拒否されないので。

（文責大木）